

岡山県立

博物館だより

80号



＜特別展＞
「発掘された日本列島2015」より＞
人物埴輪（栃木県甲塚古墳出土）
（下野市教育委員会蔵）

■ 特別展を終えて ……②③

■ 教育普及事業 ……⑥⑦

■ 交流展を終えて ……④

■ 博物館 NEWS ……⑧

■ 企画展を終えて ……⑤

■ INFORMATION ……⑧



＜交流展＞
「鳥取藩池田家三十二万石」より＞
池田光仲画像
（部分・鳥取県立博物館蔵）



＜企画展＞「岡山カルチャーゾーンの魅力」より＞
妓女図 柴田義董筆（岡山県立博物館蔵）



＜特別展＞
「破格——桃山備前——」より＞
会場写真

特別展「破格 —— 桃山備前 ——」

会期：平成27年9月18日(金)～11月8日(日)



広報ポスター

の動きが加えられ、非対称な形になったものが多いため、「破格の造形」と呼ばれることがあります。そこから引用して、展覧会の表題は、「破格 —— 桃山備前 ——」としました。

展示の内容

展示は、4章立てで構成しました。概要はつぎのとおりです。

第1章 桃山時代の壺・甕・播鉢

備前では、鎌倉時代から江戸時代にかけて、壺・甕・播鉢を集散的に大量生産します。備前焼は、西日本を中心に、全国各地で使用されていました。当時のおもな生産品であった壺・甕・播鉢を、年銘入の作品を中心に、ご紹介しました。

第2章 「茶の湯」の世界 —— 上田宗箇を通して ——

上田宗箇は桃山時代を代表する武家茶人です。千利休から茶を学び、慶長の「茶の湯の名人」として知られた古田織部と深い親交がありました。上田宗箇流に伝わる『宗箇様御問書』に基づきながら、「茶の湯」のため、特別に制作されるようになった陶磁器をご紹介しました。



記念講演会



トークセッション



特別展示解説

第3章 「只今」から考える

桃山時代の造形や焼成について深く考えるため、現代作家15人の方に、解釈を加えた備前焼茶碗「只今」の制作をお願いしました。また、「只今」を3Dカメラで撮影し、樹脂や金属、そして備前焼の複製品を作成しました。完成した作品は作者の見解とともにご紹介しました。「只今」は同時代に美濃などで制作された茶碗とともに展示し、当時の人々には「只今」がどのように見えていたか考えました。

第4章 「桃山備前」の名品

「茶の湯」にまつわる桃山時代の作品を一堂に集め、展覧しました。

会期中には、上田宗箇流若宗匠である上田宗箇氏による記念講演会、「只今」制作に参加した作家の方によるトークセッション、重要無形文化財保持者(人間国宝)である伊勢崎淳先生による特別展示解説を行いました。また、「只今」の複製品を使った呈茶を行い、好評を得ました。

展覧会を終えて

ポスターを飾った「太郎庵」や「福耳」をはじめ、備前焼を代表する作品がそろい、様々な分野の方の注目を集めると同時に、たくさんのご意見をいただく展覧会となりました。来館者数は、8,387人でした。(学芸員 重根弘和)

特別展「発掘された日本列島2015－新発見考古速報－」

会期：平成27年11月13日(金)～12月23日(水・祝)

18年ぶりの岡山開催

我が国では、埋蔵文化財(遺跡)の発掘調査が毎年8千件近く行われており、数々の新発見が日々積み重ねられています。本展は、近年話題となった全国各地の発掘成果とその出土品を紹介する全国巡回展です。平成7年度から全国各地で毎年開催されており、岡山県での開催は平成9年度以来2回目、18年ぶりのことでした。今年度は全国5会場を巡回し、岡山県立博物館は西日本では唯一の開催館となりました。



広報ポスター

話題の発掘成果を一堂に!

列島展は、全国巡回する中核展示と各開催館で企画される地域展示で構成されています。今年度の中核展示では、全国から選りすぐられた、旧石器時代から近代にいたる28遺跡の出土品約570点を一堂に展示しました。多彩な展示品の中でもとくに人気だったのが、甲山古墳(栃木県下野市)出土の埴輪たちでした。愛嬌のある人物埴輪や馬形埴輪、全国初出土の機織形埴輪が、来館者の注目を集めていました。また、今回の中核展示では2つの特集が組まれました。特集1の東日本大震災復興事業に伴う発掘成果では、岡山県では見る機会がほとんどない東北の考古資料がまとまって展示されました。そして、特集2の全国史跡



中核展示 会場

整備市町村協議会発足50周年記念展示では、我が国の史跡整備の歩みと各地の取り組みが大型タペストリーで紹介されました。



地域展示 会場

充実した地域展示

岡山県立博物館での地域展示では、2つのテーマで岡山県の原始古代を紹介しました。

特集1「邪馬台国と吉備」では、古代史最大の謎とされる邪馬台国と、特殊器台に代表される独自の地域文化を築いた吉備との関係について探りました。とくに展覧会直前に明らかになった、卑弥呼の鏡といわれる三角縁神獣鏡発見の古文書は大きな話題となりました。そして、特集2「大地からの便り

2015」では、昨年発見された総社市神明遺跡の銅鐸をはじめ、近年の岡山県内の主な発掘成果を紹介しました。

今回の地域展示は、県内の自治体や大学の御協力によって質量ともに充実した内容となり、展示点数は中核展示を越える約770点となりました。

展覧会と連動した多彩な関連行事

会期中には、展覧会の内容と連動した5つの関連行事を実施しました。「記念講演会」では、文化庁主任調査官の棚田佳男氏と、大阪大学教授の福永伸哉氏に、最新の発掘調査と考古学研究の成果を御披露いただき、いずれも大勢の参加者で会場は熱気にあふれていました。「大地からの便り2015」は毎年開催している岡山県内の発掘成果報告会で、今回は列島展の展示に合わせた内容だったことから、例年以上に多くの参加者でにぎわいました。「つくろう★マイはにわ」は、自分だけの埴輪をつくる体験講座で、地元陶芸作家の御協力により、楽しい埴輪たちがたくさんできました。「大学生ボランティアガイド」では、岡山理科大学・岡山大学の考古学専攻生14名が会場でガイドし、展示内容がよくわかったと来館者からの評判も上々でした。「学芸員・発掘調査員による展示解説」は会期中5回開催し、いずれの回も参加者が多く、関心の高さがうかがえました。

展覧会の魅力を高めた様々な取り組み

本展での岡山会場独自の取り組みとして、岡山県内を中心に活動されている造形作家たちによる考古学アートイベント「古墳カフェ in 吉備」との連携によって、イラストによる解説パネルや多彩なミュージアムグッズ、記念スタンプなど、魅力的な企画が実現しました。また、古代吉備のシンボルともいえる特殊器台をPRするため、「吉備特殊器台復刻プロジェクト実行委員会」によって復刻制作された特殊器台計3組を参考展示しました。

そして、文化財は国民共有のものという理念に基づき、展示品の写真撮影をすべてOKとしました。さらに、SNSなど新たな広報活動にも力を入れ、より幅広い世代・客層が展覧会へと足を運んでもらえるよう努めました。

展覧会を終えて

本展には9,626人の来館者をお迎えすることができ、考古学分野の展覧会としては近年まれにみる大盛況となりました。日本列島の発掘最前線を紹介した本展を通して、歴史や文化への興味関心、埋蔵文化財保護への理解を深めていただくと共に、原始古代の造形の素晴らしさを感じ取っていただけたなら幸いです。今後も、魅力的な展覧会を企画・開催してまいりますので御期待ください。(学芸員 佐藤寛介)

交流展を終えて

平成27年度岡山・鳥取文化交流事業 交流展「鳥取藩池田家三十二万石」

会期：平成28年1月21日(木)～2月21日(日)

今年度から始まった岡山・鳥取文化交流事業は、鳥取県立博物館の協力を得て鳥取藩池田家にゆかりの文化財を紹介しました。

鳥取藩池田家

展覧会は、寛永9(1632)年以降、幕末まで鳥取藩(因幡国・伯耆国)を治めた鳥取藩池田家の文化財44件の資料で構成しました。

今回の展覧会では、池田光仲を含めた鳥取藩池田家藩主全員の肖像画をお借りしました。また、光仲の父である池田忠雄や祖父池田輝政ら、光仲以前の池田家当主の肖像画も一堂に会することができました。

同時期に製作されたことが明らかになった鳥取県立博物館所蔵池田恒興画像と、林原美術館所蔵池田輝政画像、池田利隆画像の三幅も数年ぶりに並び、最新の研究成果を県民の皆さんにご紹介する場ともなりました。

また、藩主だけではなく、夫人の書や和歌も展示しました。特に第11代藩主夫人の宝隆院は、幕末に存命であったことから写真も伝わっていて、風雅な和歌色紙とあわせてご覧いただきました。

鳥取藩池田家関連で忘れてならないのが、日本三大仇討ちとされる「鍵屋の辻の決闘」がこの家臣同士で起きたということです。仇討ちを果たした渡辺数馬と、それを支援した荒木又右衛門の子孫が書いた家譜から、当時の緊張感をご覧いただけたのではないかと思います。

鳥取藩池田家の藩政や肖像画に触れる関連行事

関連行事として、名古屋大学大学院文学研究科教授 池内敏氏による「池田光仲・綱清期における鳥取藩政と参勤



広報ポスター

交代」と、岡山大学大学院教育学研究科准教授 齋藤夏来氏による「池田恒興は岡山・鳥取藩祖か？—肖像画から迫る—」の記念講演会を行いました。

池内氏は、現在編纂が進められている『新鳥取県史』の調査・研究の最新研究成果を踏まえて、「鳥取藩政の基礎部分は池田光仲が築いたが、綱清期に参勤交代制度の確立とあわせて充実が図られた」等のことをお話してくださいました。

齋藤氏は、今回展示した池田恒興・輝政・利隆等の肖像画をもとに、「肖像画を見ることによって、池田光政やその他の藩主たちがどのように先祖を意識していたのか分かってくるのではないかと」等のことを講演されました。

岡山藩池田家と同じく、江戸時代を通して鳥取藩を治めた池田光仲以降の池田家。両者を比較することでさらに理解が進むのではないかと考え、林原美術館にご協力いただき1月2日(土)から2月14日(日)まで、「戦陣に舞う揚羽蝶—池田家草創期—」も開催され、林原美術館と当館展示室にてリレー展示解説を実施し、鳥取・岡山両池田家の事績や文化財について知っていただくことができました。

また、会期中の3日間、当館友の会ボランティアが、春から勉強し



ボランティアガイド

てきた成果を生かして展示ガイドを行いました。鳥取藩池田家について分かりやすく解説し、ご来館いただいた皆さんにより詳しく知っていただくことができたのではないかと思います。

展覧会を終えて

本展は4,676人にご来館いただき、「岡山藩池田家は知っていたが、お隣の鳥取県にも一族がいたことを初めて知ることができた」「両池田家を見比べることによって、現在の岡山県と鳥取県との交流の歴史の深さを文化財を通して見ることができた」「ぜひ、鳥取県に行ってみよう」等の感想が寄せられました。今後、3年にわたって行われる鳥取県との文化交流事業が、両県の歴史をより深く理解する場となるよう、引き続き取り組んでいきたいと思っています。

(主幹 内池英樹)



池内氏記念講演会

岡山カルチャーゾーン30周年記念事業 企画展「岡山カルチャーゾーンの魅力」

会期：平成27年7月16日(木)～9月13日(日)

岡山城や岡山後楽園を中心に、多数の文化施設が集まるエリアを岡山カルチャーゾーンと名付けてから、平成27年はちょうど30年に当たります。



広報ポスター

岡山県立博物館では、これを記念して企画展「岡山カルチャーゾーンの魅力」を開催し、エリア内の美術館・博物館等から選りすぐりの優品を当館に集めて展示しました。

優品を集めた展覧会

県立美術館からは、雪舟・宮本武蔵などの水墨画コレクション、夢二郷土美術館からは大正ロマンを代表する画家竹久夢二が描く夢二式美人画、林原美術館からは国宝の備前刀と大名調度、オリエント美術館からはエジプト・メソポタミアの考古資料、県立図書館からは旧岡山藩の貴重図書、岡山後楽園からは大名の書、そして天神山文化プラザからは曾我英丘氏の現代書。どれも特徴的で、特別な作品が出品されました。

林原美術館と当館が所蔵する、国宝や重要文化財の備前刀六口が並んだ姿は圧巻でした。古代オリエントと古代吉備の考古資料や、近世絵画の美人画と夢二式美人画などは、時代の違いを踏まえた上で比較を楽しんでもらいました。

岡山カルチャーゾーンならではの関連行事

展覧会期間中には、同エリアの魅力を紹介するための様々な行事を行いました。

記念講演会では、倉地克直岡山大学特命教授から「記録を読むということ」というテーマで、岡山に残る歴史資料の魅力についてお話いただきました。(参加者60人)

名品紹介トークバトルでは、毎回出陳館の学芸員や司書複数名に当館まで来てもらい、展示解説をお願いしました。同エリア内にある施設であっても一緒に展示解説をするのは初めての試みです。観覧者には学芸員同士のやり取りも楽しんでもいただきました。(参加者142人)



名品紹介トークバトル

夏休みワークショップ教室では、同エリア内の施設のオリジナルグッズづくりに挑戦してもらいました。「挑戦！岡山城べえばあくらふと」は細かい作業の連続でしたが、親子で根気よく挑戦してもらいました。完成作品を2階ホールに展示しました。



くさび形文字の粘土板ペンダント

「水墨画に挑戦！武蔵の鳥を描いてみよう」「夢ニデザインで楽しむくみボタン」「くさび形文字の粘土板ペンダント」では、岡山県立美術館・夢二郷土美術館・岡山市立オリエント美術館の学芸員が来館し、指導してくれました。展示中の関連作品や作者を思い浮かべながら、グッズづくりを楽しみました。(参加者91人)

かるちゃんさんぽ～テーマで巡るカルチャーゾーン～では、異なる4つのテーマをもとに同エリアをぶらり散歩しました。当館の展示室を出発点に2～3の施設を巡り、行く



かるちゃんさんぽ

先々で各館の学芸員や司書から解説してもらいました。また、道中は、旧岡山城下町の遺構等を紹介しました。(参加者71人)

展覧会を終えて

岡山の豊かな歴史と文化を、もっと多くの県民に伝えて楽しんでもらう契機としたい。この展覧会は、そうした思いをもとに構成し、行事を計画しました。展覧会ポスターのデザインを岡山県立大学の学生に依頼したのも、若い世代にも伝えたいという狙いからです。かつて岡山城下町であったこの地は、政治だけでなく文化の中心地であり、発信地でもありました。県民が気軽に文化に親しむ機運を、ここ岡山カルチャーゾーンから発信できれば素晴らしいと思います。(来館者数6,779人) (学芸課長 竹原伸之)

教育普及事業の概要

平成27年度も児童・生徒・一般の方々を対象に、さまざまな教育普及事業を実施しました。

■館内授業・出前授業

本館で実物資料に触れ、展示の見学を行う「館内授業」と、学芸員が実物資料を持参し、小中学校で実施する「出前授業」は好評で、今年度は、あわせて78の学校にご利用いただきました。

「館内授業」では、展覧会にあわせての見学や、テーマに基づいた授業を行いました。バックヤードの見学も好評です。お気に入りの文化財を一点探そうことができるように、10～15分の時間を設けて、子どもたちが館内を自分自身の興味に基づいて見て回れるような工夫もしました。

「出前授業」では、民俗分野の昔の暮らしについての授業のほか、考古学や備前焼などの授業を行いました。



館内授業



出前授業

■学芸員による展示解説

平常展は第2・第4土曜日、展覧会期間中は毎週土曜日の午後2時から、学芸員が展示内容の解説を行っています。展覧会の内容を詳しく、展示資料を分かりやすく説明しています。今年度も毎回多くのお客様にお越しいただきました。



特別展新発見考古速報 発掘された日本列島2015

■中学生職場体験

今年度も岡山市内の中学校2年生（4校8人）が博物館業務を体験しました。文化財を守り、来館者がわかりやすいように展示する仕事が、自分たちが考えていたよりも大変だったようです。



資料洗浄



温湿度計測

■博物館実習

学芸員資格の取得をめざす県内外の大学生14人が、当館での博物館実習に参加しました。8月中の5日間の日程で、文化財の取扱いなどの実技や博物館行事の支援などを通じて、博物館活動の実態を学んでももらいました。将来の文化財行政を担う人材となることを期待しています。



博物館実習

■吉備の国ジュニア歴史スクール

「吉備の国ジュニア歴史スクール」は7年目を迎えました。今年度は「岡山の巨大古墳校体験コース」を実施しました。参加校は、吉備中央町から円城小学校（6年生11人）、吉川小学校（5、6年生12人）、豊野小学校（6年生16人）、大和小学校（6年生9人）、上竹荘小学校（6年生11人）、玉野市から、日比小学校（6年生18人）、第二日比小学校（6年生33人）でした。

第1日目は、造山古墳とこうもり塚古墳を見学しました。第2日目は、博物館で実物資料に触れながら授業を受け、あわせて展示室も見学しました。



第1日 造山古墳・こうもり塚古墳見学



第2日 実物資料に触れあう館内授業

この2日間の成果をもとに、各学校で新聞作りや学習発表会を通して学習のまとめを行いました。今年度の事業の様子は、報告集にまとめて県内すべての小学校へ配布しています。



学習発表

■博物館講座

「岡山の歴史と文化」をテーマに行う講座で、スタンダード・スペシャルの2コースを開講しています。

前者は、学芸員が平素の研究成果を講義するもので、全4講座（6月火曜・木曜開講）113人が受講しました。後者は、各研究の第一人者を講師にお招きする講座で、全4講座（7月～10月）を85人が受講しました。



スペシャルコース

■ジュニア学芸員講座

「ジュニア学芸員講座」は、中学生・高校生が「ジュニア学芸員」として博物館の仕事を実際に体験し、本物の文化財を通して岡山の歴史と文化を学ぶものです。



資料の扱い方

今回は20人が参加し、8月4日（火）～6日（木）の計3日間にわたり、様々な分野の文化財の取扱いや、史跡見学、発掘調査、博物館行事などを体験しました。

参加した生徒たちは全員熱心に取り組み、多くのことを学んだようです。今回の講座が、将来の学芸員や博物館ファンを育む機会になることを期待しています。講座の様子をまとめた報告集を作成し、県内の学校などへ配布しています。



資料の計測

寄贈資料紹介

今年度も貴重な資料を当館にご寄贈いただきました。寄贈してくださった方々のご趣旨に沿う形で、長く保存と活用を図っていきたくと考えております。今後折にふれて公開して参ります。ご寄贈ありがとうございました。

- | | |
|-------------------------------|------|
| ・『岡山名勝』 岡山後楽園・岡山城など戦前の絵葉書 | 1冊 |
| ・戦前の生活用品 染付皿・染付絵鉢、漆碗、ラジオほか | 18点 |
| ・鉄砲（備前筒） | 1挺 |
| ・漆掻き道具一式 漆おけ、皮くりかま、へら、漆かんなどほか | 40点 |
| ・日本刀 脇差、あいくち、やり、短刀ほか | 11口 |
| ・岡山の戦前の絵葉書 主に戦前の岡山後楽園の風景など | 136枚 |
| ・昭和時代の生活道具 重箱、農具、おひつ、絶縁試験器など | 23点 |
| ・打掛、掛け時計 | 2点 |
| ・婚礼に用いられたふくさ | 1点 |
| ・第1回（大正9年）ほか国勢調査の際の資料と写真 | 6点 |



短刀 銘 備中国水田住国重作



体験用甲冑

このほか、近年増加する外国からの来館者に備えて、英語・中国語・韓国語等の表記が入ったパネル等を整備しました。また、着用することができる体験用甲冑大人用6領、子ども用4領ほかを購入しました。（副館長 三宅克広）

INFORMATION

●●●●● 平成28年度の展覧会予定 ●●●●●

特別展 「カミとほとけの姿ー岡山の信仰文化とその背景ー」

会期 平成28年9月9日(金)～10月16日(日)

特別展 「新見荘～中世荘園の記憶～」

会期 平成28年10月21日(金)～11月20日(日)

企画展 「手しごと博覧会2016」

会期 平成28年7月14日(木)～9月4日(日)

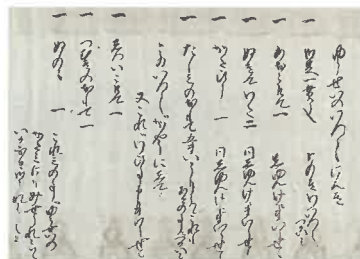
交流展

岡山・鳥取文化交流事業「とっとり弥生の王国」

会期 平成29年1月19日(木)～2月26日(日)



聖観音菩薩立像
(岡山市明王寺蔵)
「カミとほとけの姿」より



国宝・東寺百合文書のうち「たまがき書状」(部分)
(京都府立総合資料館蔵東寺百合文書WEBから)
「新見荘～中世荘園の記憶～」より



麦稈真田
(岡山県立博物館蔵)
「手しごと博覧会2016」より



青谷上地寺遺跡出土品
(鳥取県教育委員会蔵)
「とっとり弥生の王国」より

岡山県立博物館だより 第80号

発行日／平成28年3月1日

発行者／岡山県立博物館 館長 谷名 隆治

〒703-8257 岡山市北区後楽園 1-5

TEL:086-272-1149 FAX:086-272-1150

URL <http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kenhaku/hakubu.htm>

この用紙は古紙・再生紙を
含んでいます。